

フォーマット

A部門

肯定側立論	-----6分
否定側質疑	-----3分
否定側第一立論	-----6分
肯定側質疑	-----3分
肯定側第二立論	-----6分
否定側質疑	-----3分
否定側第二立論	-----6分
肯定側質疑	-----3分
否定側第一反駁	-----4分
肯定側第一反駁	-----4分
否定側第二反駁	-----4分
肯定側第二反駁	-----4分
準備時間	:各チーム8分

B部門

肯定側立論	-----6分
準備時間	-----1分
否定側質疑	-----3分
準備時間	-----1分
否定側立論	-----6分
準備時間	-----1分
肯定側質疑	-----3分
準備時間	-----1分
否定側第一反駁	-----4分
準備時間	-----2分
肯定側第一反駁	-----4分
準備時間	-----2分
否定側第二反駁	-----4分
準備時間	-----2分
肯定側第二反駁	-----4分

日本ディベート協会主催

第6回

JDA 春期ディベート大会

日時：2000年3月20日 9時25分～

場所：津田塾大学

ごあいさつ

日本ディベート協会の春期大会へようこそ。出場選手、聴衆の皆さん、運営委員、お手伝い、審査員の方々、皆様のご協力で今年もディベート大会を開催できる運びとなりました。

ディベートは日本の社会や教育の中でますます注目を集め、その重要性はいまや議論の余地のないところかと存じます。一方で、ディベートはカルト教団のイメージと重なったり、空虚な議論をもてあそぶものだというような批判があったり、まだまだ誤解もあるようです。もちろん、こういったディベートの否定的な面は遠く古代ギリシャのソフィストの時代からあり、それを克服していく努力を怠ってはなりません。

ここで指摘しておきたいのは、実社会の意思決定においてもディベートは有効な道具ではあるが、決して万能ではなく、使うにふさわしい条件をわきまなければならないということです。教育や競技の場においても、その指導や運営には教育的な見地からの注意が必要です。たとえば、論題の選定にはわれわれも細心の注意を払っています。教育ディベートでは、肯定・否定両方の立場に立って議論できるように、初めから両方の議論が可能な論題を設定しているわけです。

また、社会的に重要なテーマを扱っていますので、皆様はディベートの中の双方の議論を楽しむだけでなく、実社会に立ち返って自分の意見や立場を考え直してみてください。今回は、両部門とも原子力の利用が論題になっています。ともすれば感情的な議論や利害と結びついた一方的な議論が世間には流布しています。もう一度さまざまな争点を吟味し、日本のひいては世界の将来にとって原子力の利用やエネルギー政策はどうあるべきなのかを考えてみましょう。

日本の政界では「党首討論」が導入されました。小淵総理をはじめ国会議員にこれがディベートだと見せることができるような試合があったらと願っています。

井上 奈良彦

日本ディベート協会会長
井上 奈良彦
(九州大学助教授)

論題

A 部門:「日本政府は、エネルギー供給のための原子力施設をすべて廃止すべきである」

B 部門:「日本はすべての原子力発電を代替発電に切り替えるべきである(切り替えは2020年までに行うこととする)」

日程

A 部門

09:25～09:35 開会式

09:40～11:00 第一試合

12:05～13:25 第二試合

14:10-----予選結果発表

14:25～15:45 決勝戦

16:10-----決勝戦結果発表

16:30～16:45 表彰式

16:45-----終了

B 部門

09:25～09:35 開会式

09:40～09:35 第一試合

10:55～11:55 第二試合

12:55-----予選結果発表

13:10～14:10 決勝戦

15:50-----決勝戦結果発表

16:30～16:45 表彰式

16:45-----終了